

2009年度（第13回） 神戸大学ボランティア講座 受講生募集要項

[日程]

- 講義等 …………… 2010年2月21日（日）
体験実習 …………… 2010年2月23日（火）～3月16日（火）の内3～4日間
意見交換会 …………… 2010年3月18日（木）

[会場]

- 講義等 …………… 神戸大学瀧川記念学術交流会館
体験実習 …………… 協力団体の各施設
意見交換会 …………… 神戸大学鶴甲第1キャンパス M棟 202教室

主催：神戸大学

協力：神戸大学学生震災救援隊

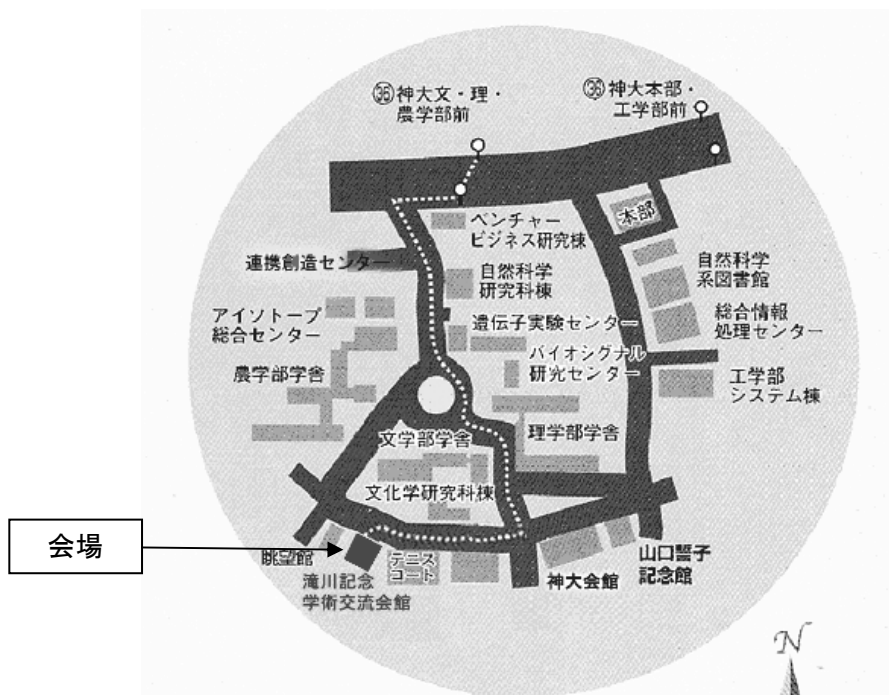
神戸大学総合ボランティアセンター

※受講申込書は、この募集要項の最後に綴じ込んでいます。

会場案内

■2010年2月21日(日) 講義等会場：瀧川記念学術交流会館

【交通アクセス】阪急六甲・JR 六甲道・阪神御影の各駅より、神戸市営バス 36 系統乗車、「神大文・理・農学部前」バス停にて下車、南に徒歩 5 分（下地図参照）。



■2010年3月18日(木) 意見交換会会場：鶴甲第1キャンパス M202 教室

【交通アクセス】阪急六甲・JR 六甲道・阪神御影の各駅より、神戸市営バス 16 系統乗車、「神大国際文化学部前」バス停にて下車、徒歩 5 分（下地図参照）。



1. 講座趣旨

本講座は、神戸大学生が課外でのボランティア活動や社会活動などを通じて、キャンパスの中だけでは得られない社会の実際に即した学びを得ることを目的としています。この講座の原点である1995年の阪神・淡路大震災に際しては、多くの神戸大学生が地域での救援ボランティア活動に従事し、被災した人々と真摯に向き合う中で、地域に存在するさまざまな社会的課題に気づかされ、自分の生き方や社会的役割そのものを問われる経験をしました。これを契機に、被災地にある総合大学として、神戸大学はこのような真摯な学びの場を提供し得る学生による課外での社会活動の重要性を認識し、その推進と支援を目的として1997年度より本講座を実施してきました。

なお、本講座は神戸大学学務部と神戸大学都市安全研究センター学生ボランティア支援室の連携のもと、本学学生サークル「学生震災救援隊」「総合ボランティアセンター」の協力を得て企画実施するものです。

2. 本年度テーマ 「自立を問い直す——生き難い社会の中で」

本年は「自立を問い直す——生き難い社会の中で」をテーマに設定して本講座を実施します。「自立」という言葉は、被災した人や「しょうがい」を持った人、野宿生活を強いられている人、「ひきこもり」や「ニート」と呼ばれる若者などに対して、様々な場面で使われます。ですがその意味合いはそれぞれ異なりますし、それを発するのが行政や世論であるのか、当人から出た言葉であるのかによっても、その意味は変わってきます。

阪神・淡路大震災に際して、全国から駆けつけた多くのボランティアが「被災者の自立」を支援するために活動を行ないました。こうしたボランティアによる活動は、被災した人を支え、勇気づけました。しかし一方で、同じ「被災者の自立」という言葉が、避難所の解消や各種支援の打ち切りのためにも使われました。「自立」が住居などの生活基盤が十分に確保されていない段階で、後は自己責任としてやってくださいと被災者を突き放す口実にされたのです。こうしたことがあって、阪神・淡路大震災の際に活動したボランティアは「被災者の自立」とは何だろう、何をすることが、被災した人の「自立」の支援になるのだろうと悩みました。

当時のボランティアが、災害救援から復興の過程において「被災者の自立」について悩み考えたように、現在も「自立」を考えることは、私たちが様々な問題に直面している人々と関わる上で必要不可欠なのです。

では、一般に「自立した人」とはどのような人を指すのでしょうか。経済的に家族を養う力のある人でしょうか。社会的に認められた人でしょうか。自分のやりたいことを実現できる人でしょうか。「自立」という言葉に対して多くの人が持っている「その人がその人の力で生きていく」という一見前向きなイメージの影には、私たちが多くの人との関わりの

中で生きているという自明のことを薄れさせる落とし穴があります。自分の力だけで生きることを良しとする風潮によって、他人に頼らざるを得ない人が追い込まれ、孤独や孤立を深めかねません。このような「自立観」が今の生き難い社会の中に潜んでいるのではないのでしょうか。

本講座では、「子ども・若者」「移住外国人」「野宿者」「被災者・被災地」「しょうがい者」の5つの分野で出会う人々の「自立」を考え、自分はその人にどう向き合うのかを考えることを目的とします。さらに、この講座を通して、様々な困難を抱えながらも社会の中で生きている人々の多様な「自立のあり方」に目を向けてもらえればと思います。そしてそれは、「自分自身の自立」を見つめ直すきっかけにもなると思います。

3. 概要

- ◎定員 60人（21日の講義のみ一般参加を含め100人）
- ◎対象者 神戸大学学生（講義は一般にも公開、事前申し込みが必要）
- ◎受講料 無料
- ◎申込方法 巻末に綴り込んである「受講申込書」に必要事項を記入し、体験実習分野と日程を選択のうえ、2010年2月10日（水）午後5時までに学務部学生生活課学生相談係、学生ボランティア支援室、各学部・大学院各研究科教務学生担当係のいずれかに提出してください。
- ◎会場 講義は瀧川記念学術交流会館で実施。実習は各受入先で実施。意見交換会は鶴甲第1キャンパスM棟で実施。

◎講座内容

I 総論・入門編としての講義等 2010年2月21日（日）10:00~17:00

- ① 開講式（10:00~10:20）
- ② 講義「自立とは何か」（10:30~12:00）
講師：伊田 広行 氏（立命館大学非常勤講師）
- ③ パネル討論「自立を問い直す——生き難い社会の中で」（13:00~16:00）
司会：藤室 玲治 氏（神戸大学都市安全研究センター学術推進研究員）
パネリスト：各実習現場関係者より1名ずつ（5分野5名）
- ④ 実習ガイダンス（16:15~17:00）
体験実習の分野ごとに分かれ、実習先の紹介と実習先が取り組んでいる問題に関する簡単なガイダンスを行います。

II 体験実習 2010年2月23日(火)～3月16日(火)のうちの3～4日間

各実習先の協力を得て、上記の期間内に体験実習を行います。体験実習は①「子ども・若者」②「移住外国人」③「野宿者」④「被災地・被災者」⑤「しょうがい者」の5分野で、受講者が選択した、いずれかひとつの分野で体験実習を行います。各分野の詳細については6頁以降をご参照下さい。

III 意見交換会 2010年3月18日(木) 10:00～17:00

体験実習などを中心に意見交換及び情報提供などを行い、より深い問題意識などを養うことを目的とし、次の内容により行います。

- ① グループ内討論 (10:00～12:00)
- ② 発表・全体討論 (13:00～16:00)
コメンテーター：各実習現場関係者より1名ずつ(5分野5名)
- ③ 講評 (16:10～16:40)
- ④ 閉講のあいさつと講座修了認定証配布 (16:40～17:00)

◎ボランティア保険の加入について

体験実習に参加する場合は、ボランティア保険に加入します。未加入の方は2月21日(日)の本講座受付で加入手続き(加入料：50円)を行ってください。

◎交通費・宿泊費について

宿泊のない、①「子ども・若者」③「野宿者」⑤「しょうがい者」分野では、実習先に行くための交通費(定期券等が重複していない区間のみ)は一人当たり1,000円を限度に支給されます。実習時に請求書に記入して実習終了後、実習グループ代表に提出し、3月18日(木)の意見交換会の際に受け取ることになります。

2泊3日で実施する②「移住外国人」④「被災地・被災者」分野については、大学の借り上げたバスで移動するため、交通費は必要ありません。宿泊費も不要です(ただし、現地での食費は自己負担)。

◎レポートの提出について

受講者は、初日の講義と現場実習に関するレポート2本を3月17日(水)までに提出して頂きます。提出されたレポートは、「神戸大学学生ボランティア講座報告書」に原則として原文のまま掲載し、印刷・公表します。それにより受講者、協力者及び協力団体へのフィードバックと、将来の大学活動での活用を図ります。

◎修了証の交付について

受講状況などの所定の要件を満たし、レポートを提出したのものには、修了証を交付します(単位の認定は行いません)。

問い合わせ先：

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1丁目2-1 神戸大学学務部学生生活課学生相談係(藤原)
TEL：078-803-5227 FAX：078-803-5209 E-mail: stdnt-gkmsodan@office.kobe-u.ac.jp

◆体験実習分野①「子ども・若者の居場所」分野について

◎募集定員：10名

◎実習期間：2月23日～3月16日までの間の3日（選択）

◎背景と課題

ここではこどもの居場所の実践を通して、不登校という問題と、外国にルーツをもつこどもの問題、そして若者の居場所の実践から若者の自立について考えていきます。

自立とは、果たしてどういったものなのでしょう。多くの方は、良い学校に行き、良い会社に入り、経済的に一人でやっていくことだと捉えているのではないのでしょうか。そうした自立像からは「自立」という美德への筋道、ルールが示されているように思われます。

「自立」のためには、学校に行かなければならない、しかも「良い」学校に行かなければならない。そして少しでも「良い」会社に入社して、少しでも多くのお金を稼がないといけない。では、良い学校に、良い会社に入れなければ、自立はできないのでしょうか。そうしたいわゆる「自立」への筋道から外れてしまう人も世の中にはいます。

それが前述した不登校のこどもや外国にルーツをもつこどもたちです。不登校という問題は、学校に通うことができなくなった理由は人それぞれですが、社会では不登校であるというだけで「自立」できなくなる、「指導」しなければならない対象として見られてしまいます。こども自身がまず学校に通うことができないことに苦しみ、その上で、周囲からも学校に行くことを強要され、どんどん自分を追い込んでしまいます。こどもが「自分」でいることができた居場所は「学校」と「家庭」の2つだったのに、学校に行けず家庭でも親からプレッシャーを受け、どこにも居場所がなくなってしまいます。そんな背景の下、学校という社会に対して何がしかの辛さを感じ、どうしようもなくなったこどもたちが「自分」を取り戻していく居場所がフリースクールです。

また日本においては、いわゆる「自立」への筋道では日本人であることや日本語が話せることが求められます。在日外国人はそうした国籍や言語といった理由だけで、学校や会社から取り残される、はじき出されてしまいます。母国語であれば、理解できた事柄・問題も、一度日本語に翻訳しなければならない、そうやってまずは日本語を習得している間に周囲に置いていかれます。また日常生活の中で日本語を覚えても、生活言語と学習言語の違いに戸惑い、上手く学習が進まないということもあります。また、そうしたこどもたちは、日本人ではない「自分」を、周囲からの同調圧力や外国人だからという偏見の目によって、日本人と偽ったり、追い込んでしまったりしてしまいます。学習支援の場は、そうした学びの面と、同じように外国にルーツをもつこどもたちと会うことができ、外国にルーツをもつ「自分」と向き合うことができるというもう一つの側面があります。様々な理由で来日し、そのまま日本に残ることになった外国にルーツをもつこどもたち、そして先ほども触れた不登校のこどもたちにとって、自立とは何でしょうか。

そして学齢期を過ぎても、社会に対して各々が何がしかの辛さを感じ、どうしようもなくなる人はいます。ただ「自立」という美德は、そうした人の辛さにはあまり焦点をあて

ず、半ば強制力を持ったかたちで突きつけられていきます。若者、おとなにも自分を取り戻す居場所が必要でしょう。

それぞれの現場の中で、「自立」の筋道から外れてしまっても他の生き方があるということ、それと同時に社会の中に「自立」の筋道が厳然と存在するということが、様々なことを感じ取り、もう一度、自立とは何かを問い直すのがこの分野の目的です。

◎実習のねらいとプラン

このテーマの実習は、若者の居場所への参加1日とこどもの居場所への参加2日で構成されます。こどもの居場所については、フリースクールと在日外国人のこどもの学習支援に1日ずつ参加します。フリースクールについては3ヶ所の居場所が実習を受け入れて下さるので、3ヶ所から選択して下さい。

実習概要	実習協力団体及び実習内容	実習期間
若者の居場所	協力団体：コムニタス・フォロ 実習内容：学齢期のすぎた若者の居場所に参加します。主にサロンで様々な議題を話すなどします。 実習場所：大阪市中央区徳井町 1-1-3	2月27日（土） 3月6日（土） 14:00~16:00
こどもの居場所 (フリースクール)	協力団体：フリースクール・フォロ 実習内容：不登校のこどもの居場所、フリースクールに参加します。こどもたちが企画したプログラムに参加します。 実習場所：大阪市中央区徳井町 1-1-3	2月26日（金） 3月12日（金） 11:00~16:00 3人まで 21歳以上
	協力団体：NPO 法人ふおーらいふ 実習内容：不登校のこどもの居場所、フリースクールに参加します。自由参加のカフェで自由にお話した後、メンバーミーティングに参加します。 実習場所：垂水区仲田 2-1-32	3月8日（月） 11:00~17:30
	協力団体：神戸フリースクール 実習内容：不登校のこどもの居場所、フリースクールに参加します。一緒にランチづくり、工作などを一緒にします。 実習場所：中央区下山手 8-8-10	2月23日（火） 11:00~16:00 定員10人まで
こどもの居場所 (在日外国人のこどもの学習支援)	協力団体：神戸定住外国人支援センター 多文化子ども共育センターMOI 実習内容：外国にルーツを持つ子ども達に、学校の宿題や漢字を教える学習支援教室に参加します。 実習場所：長田区若松町 4-4-10 アクアクエスト 北棟 502	期間中の火曜・水曜 木曜から1日選択。 火曜（定員2名） 15:30~18:00 or 18:00~21:00 水曜（定員2名） 15:30~18:00 木曜（定員1名） 18:00~20:30

◆体験実習分野②「愛知県における移住外国人の生活実態と支援状況」分野について

◎募集定員：15名

◎実習期間：2月23日～2月25日の3日間（2泊3日）

◎背景と課題

移住外国人とは、帰国を前提とする、しないにかかわらず、日本に継続して長期間住む意思または事情があり、生活の基盤が日本にある外国人のことで、主に仕事を求めてやってきた人が多いです。観光や商談、興業などで一時的・短期的に日本に滞在する外国人とは異なります。この分野では特に、1980年代以降に渡日したニューカマーにスポットを当てます。

課題①移住外国人と言葉：日本社会は日本語ができることを前提として成り立っています。

しかし、来日して間もない人にとっては、日本語はもちろん難しいです。このことは、書類を作成する時、町を出歩く時、コミュニケーションをとる時など生活のあらゆる面で困難をもたらします。日本語ができる、できないによって、就職できるか、解雇になるかも関わってきます。

また、親と子どもの関係を考える時、子どもの方が日本語を覚えやすいため、親子間でのコミュニケーションが困難になります。

課題②移住外国人と法律の壁：外国人の日本における法的立場はいろいろで、就労の可否もいろいろです。特に、ビザで入国した人のビザが切れていたり、日本人の配偶者で会った人が離婚を迫られたりした場合、日本での暮らしが根本から揺らぐことになります。その立場の危うさを利用して劣悪な労働条件で働かされたり、配偶者の暴力（DV）があっても逃げられなかったりと、深刻な状況に追い込まれてしまいます。

課題③移住外国人と心の壁：定住外国人が普段生活していくのは地域社会です。そこには日本人も住んでいて、大多数が日本人である場合が多いです。回りが日本人だらけの中で、外国人の文化が受け入れられるかは、なかなか難しいし時間がかかります。ゴミ出しの仕方や、マナーの点で母国と日本では異なることが多く、近隣日本人住民との間で溝もできやすいです。

また、学校では外国にルーツを持つ子どもを日本人の子どもがいじめることもあり、自尊感情をどう育てるか、環境作りが求められます。

◎実習のねらいとプラン

ここでは、愛知県における移住外国人、特に日系ブラジル人と在日フィリピン人の現状と、その支援活動の実践について学びます。まず、愛知県豊田市保見ヶ丘団地に移動し、日本人住民と外国人住民が共生できる町づくりを行っている NGO 保見ヶ丘ラテンアメリカセンターと中年男性が自分たちで立ち上げた働く団体、ワーカーズコープから保見ヶ丘団地の現状をお話いただき、フィールドワークに参加します。次にパウロ・フレイレ地域学校で子どもたちの学習支援ボランティアに参加します。さらに、保見ヶ丘自主夜間中学を見学します。最後

に、愛知県中区に移動し、相談業務を主にしているフィリピン移住者センターから在日フィリピン人の現状と支援団体についてお話いただき、フィールドワークに参加します。

3日間の実習を通して、自分たちの身近にいる外国人と直接出会い、生活に欠かせない、教育、労働、医療、社会保障、結婚など、各面で移住外国人の置かれている状況を知り、理解を深めるとともに、今後外国人住民と地域社会で生きていくうえで必要になる環境を考え、受講者自身も含めた日本人住民に必要な心もちを考えます。

◎日程・実習内容一覧

参加者は2泊3日の間バスで移動し、下記の日程で実習を行います。

【2月23日（火）】

9：00 神戸発

12：30 愛知県豊田市保見ヶ丘団地着

13：00～ NGO 保見ヶ丘ラテンアメリカセンター着

実習内容：ブラジル人の方が多数暮らす、保見ヶ丘団地とその周辺をフィールドワークする。

協力団体：保見ヶ丘ラテンアメリカセンター、保見ヶ丘ワーカーズ・コープ

実習場所：愛知県豊田市保見ヶ丘

18：00～ 夕食後、ふりかえり

【2月24日（水）】

9：00 NGO 保見ヶ丘ラテンアメリカセンター着

実習内容：ラテンアメリカセンターが実施している、「パウロ・フレイレ地域学校」にて子どもたちの学習支援ボランティアに参加。その後、保見ヶ丘自主夜間中学校を見学。

協力団体：保見ヶ丘ラテンアメリカセンター（パウロ・フレイレ地域学校、保見ヶ丘自主夜間中学校）

実習場所：愛知県豊田市保見ヶ丘

21：00～ 終了後、ふりかえり

【2月25日（木）】

8：00～ 保見ヶ丘発

10：00～ 愛知県名古屋市中区区役所着

実習内容：フィリピンからの移住者について、その背景・日本での生活上の困難などについてお話を聞き、その後、実際にフィリピンの方が働いているパブなどの現場を見、その場の方からお話を聞く。

協力団体：フィリピン移住者センター（FMC）

実習場所：愛知県名古屋市中区区役所、中区栄町内フィリピン・パブなど

16：00 愛知県発

19：30頃 神戸着

注意：交通費・宿泊費は必要ありませんが、現地での飲食費は持参してください。

◆体験実習分野③「野宿者」分野について

◎募集定員：10名

◎実習期間：2月23日～3月14日までの間の4日（選択）

◎背景と課題

野宿している人——いわゆる「ホームレス」に対しては、様々な偏ったイメージが持たれています。そのため、ただでさえ厳しい野宿生活を送っているにも関わらず、若者による襲撃を受けたり、地域社会から排除されたり、生活保護などの社会保障を受けるのに差別的な扱いを受けることがあります。今回、この分野では以下のようなことについて考えていきたいと思います。

(1)野宿者は「なまけもので、好きで野宿していて」「ほどこしや炊き出しなどで生活していて、自立していない」というよく流布しているイメージを、実際の野宿生活を知ることで考え直してみよう。

- ・野宿者の多くは、働く場があれば働きたいと思っている失業者である。
- ・生活保護を受けるよりも、自分の手で稼ぎたいと思っている野宿者も多い。
- ・組織に依存する正社員や公務員に比べ、都市雑業で生きる野宿者の方が自立しているのではないか。

(2)野宿生活と社会的性差（ジェンダー）。野宿している人の多くは「男性」です。各種調査・地域などによって異なりますが、女性の野宿者は3～5%程度とされています。野宿生活者の中でも少数派の女性野宿者の抱える困難について、考えてみたいと思います。

(3)「自立」には、人とのつながりが必要であるということ。野宿している人は、いろいろな人とのつながりの中で生きています。また生活保護などを利用して、野宿生活から居宅生活に移った後、野宿者仲間とのつながりを失ってしまい、生きる目的を失ってしまう人もいます。「自立」のために、人とつながることのできる場所が必要だということについて、考えていきたいと思います。

◎実習のねらいとプラン

ここでは、野宿生活を強いられている人たちの現状と、「夜回り」「炊き出し」「居場所づくり」などの野宿者支援の実践について学びます。

まず、カトリック社会活動神戸センターが中央区で行っている夜回り活動に参加し、実際に野宿している人たちを訪問します。次に、三宮の小野浜で行われている、野宿者への炊き出し活動に参加します。また同じ日に、居宅生活に移行した野宿者などが学びを通じてコミュニケーション力を高め、生活意欲を向上させることを目的にしている「交流学习サークル活動まなぼう屋」の活動に参加します。

また神戸を離れ、大阪の淀川河川敷で開催されている、女性野宿者の集まるカフェに参加し、男性中心の野宿生活者の中で、さらにマイノリティとなる女性野宿者の問題について、実際にお話を聴きながら考えます。

4日間の実習を通して、野宿している人々と直接出会い、交流することで、野宿生活の実際について知ってほしいと思います。また、野宿から居宅に移行した後の生活上の困難や、性差（ジェンダー）と野宿との関係についても理解することを目指します。

◎日程・実習内容一覧

実習概要	実習協力団体及び実習内容	実習期間
夜回り活動	協力団体：カトリック社会活動神戸センター 実習内容：中央区近辺で野宿している人たちを訪問する夜回り活動に参加します。 実習場所：カトリック中山手教会より現場へ。 集合場所：阪急三宮駅東口改札前 18:30 集合	2月24日（水）か 3月10日（水） 18:30 集合 19:00~22:30 ※2日の内1日選択
炊き出し	協力団体：カトリック社会活動神戸センター 実習内容：三宮の小野浜にて、野宿者へのお昼ご飯の炊き出し活動に参加します。 実習場所：中央区浜辺通1丁目小野浜公園内 集合場所：阪急三宮駅東口改札前 8:30 集合	2月23日（火）か 3月2日（火）か 3月9日（火） 8:30 集合 9:00~14:00 ※3日の内1日選択
居宅移行後の交流・学習の場	協力団体：交流学習サークル活動「まなぼう屋」 実習内容：居宅生活に移行した野宿者などが「文字」「言葉」の学びを通じてコミュニケーション力を高めることを目的にしている「交流学習サークル活動まなぼう屋」で、参加者と交流する。 実習場所：日本基督教団神戸多聞教会集会室 神戸市兵庫区荒田町3丁目 12-14 集合場所：神戸市営地下鉄大倉山駅改札前 15:00 集合	2月25日（木）か 3月4日（木）か 3月11日（木） ※3日の内1日選択 15:00 集合 15:30~17:30
野宿とジェンダー	協力団体：「女のおしゃべり会」 実習内容：大阪で実施されている、女性野宿者などが交流するカフェに参加します。 集合場所：大阪市営地下鉄御堂筋線西中島南方南改札口 12:30 集合	3月14日（日） 12:30 集合 13:00~16:00

◆体験実習分野④「被災地の復興と被災者の生活再建」分野について

◎募集定員：15名

◎実習期間：3月9日～3月11日の3日間（2泊3日）

◎実習のねらい

災害によって被害を受けた人の生活再建に必ずといって出てくる「自立」というキーワード。メディアなどで語られる「自立」という言葉は概して住居に被害を受けた被災者がいかに自分の住居を再建するかという経済的な自立に関する文脈で使われる。

しかし、被災者の生活の再建は本当に経済的な自立や住居の再建によってのみ達成されるものなのだろうか。

近年の被災地を例にとると、自宅の再建や復興住宅への転居がなされても災害によって破壊された地域のコミュニティが再生されていない場合、ないしは転居などで周辺のコミュニティから切り離されてしまっている場合などは、被災者が経済的な「自立」はなされていても周囲のコミュニティからの「孤立」という問題を抱えることになる。

地域のコミュニティから孤立してしまうと、孤独で寂しい思いをするだけではなく、災害など、自分の力だけでは解決できない不測の事態が起こった時の周囲の助力というセーフティーネットが存在しなくなる。「自立」とはひとりで立つことではない。大事なものは互いに支え合うことができるようなつながりなのだ。

この分野では2009年8月に発生した台風9号のもたらした豪雨によって被害を受けた兵庫県佐用町の各所での実習を行なう。参加者にはこの分野での実習で、地域住民のコミュニティづくりや商店街の活性化などの実践者の活動に実際に参加し、被災当事者と直接触れ合いながら話を聴くことで人と人とのつながりの大切さや連帯によって生まれる力を実感し、「自立」の意味を再考する機会を持ってもらう。

◎日程・実習内容一覧

参加者は2泊3日の間バスで移動し、下記の日程で実習を行います。交通費・宿泊費は必要ありませんが、現地での飲食費は持参してください。

【3月9日（火）】（商店街での復興と自立）

8:00	神戸発
10:00～	佐用町商工会青年部の方々によるレクチャー
12:00～	昼食
13:30～	商店街内の聞き取り・フィールドワーク
16:00～18:00	商店街内での足湯
18:00～	入浴
20:00～	振り返り・就寝 長谷コミュニティーセンター泊

（協力団体：佐用町商工会青年部 実習場所：佐用町商店街各所）

【3月10日（水）】（農村での復興と自立）

9:00～	地元の小学生・生活研究グループのみなさんとこんにやく作り
12:30～	昼食・交流
14:00～	被災した田畑のフィールドワーク
17:00～	生活研究グループのみなさんとの座談会
19:00～	入浴
21:00～	振り返り・就寝 長谷コミュニティーセンター泊

（協力団体：佐用町生活研究グループ「ほほえみの会」 実習場所：佐用町各所）

【3月11日（木）】（被災者の復興と自立）

9:00～	仮設住宅見学などフィールドワーク
12:30～	昼食
14:00～16:00	町内での足湯
18:00～	佐用町発
20:00	神戸着

（協力団体：佐用町社会福祉協議会 ・中越 KOBE 足湯隊 実習場所：佐用町内各所）

※佐用町生活研究グループ「ほほえみ会」

全国の会員相互の連携活動により、農山漁村において望ましい経営や働き方及びゆとりある生活の研究、知識・技術等の情報交換を行い、男女がともに参画する豊かで活力ある地域社会の実現及び農林漁業の振興に資することを目的とした「全国生活研究グループ」の佐用町支部。主な活動は以下の通り。

- 農産物直売所（平成福の市）の運営
- ふれあい調理センターでの加工品生産
- 地元小学校や保育園児の農業・加工体験の実施
- ふれあい喫茶の開設
- まちとむらを結ぶ食農教室の開催

（ほほえみ会 HP より URL: <http://www.c-garage.net/hohoemi/index.htm>）

※中越・KOBE 足湯隊

2007年3月25日の能登半島地震をきっかけにした被災地支援を行なう学生ボランティアネットワーク。神戸大学や長岡科学技術大学の学生を中心に結成される。

主な活動の「足湯」は、被災者がたらい等にはったお湯に足をつけて体を温めている間に手をマッサージし、その間1対1で会話をするというもの。

能登半島地震の被災地に加え、佐用町内でも活動を行なっている。

◆体験実習分野⑤「しょうがい者」分野について

◎募集定員：10名

◎実習期間：2月24日～3月15日までの間の3日（選択）

◎実習の背景と課題

あなたの周りにはどんな「しょうがい」をもった人がいるでしょうか。親戚にいる人、見たことしかない人、一緒に生活している人など様々な方がいるでしょう。一言で「しょうがい」と言っても多種多様なものです。「しょうがい」のある人でも、車イスに乗っている方のように一目見て分かる人もいれば、耳が聞こえない方など外見では分からない方もいます。

1、しょうがい者の雇用

「自立」には「自分で働いて収入を得る」というイメージがあるでしょう。今は、効率性や能率が非常に重要とされています。そういった社会では早く正確な作業が出来なかったり、長い時間集中を持続できなかつたりすることもある、しょうがい者の方には働きづらい社会になっています。

2、自立生活

「しょうがい者だから〇〇してはいけない。」といったように、他人に生活の全てを指示されることは「自立」した生活とはいえません。自分の生きたいように生きる。好きな時に好きなことが出来る。それが出来るようになることも「自立」ではないでしょうか。しかしそれに手助けが必要な人もいます。

そして、「自立」には「一人でできるようになる」というイメージが無いでしょうか。しかし、生活を送るにあたって、ご飯が作れない方にはご飯を作ることが必要であるように何らかの手助けが必要な場合もあります。

他にも、しょうがいと言っても多種多様で、自分の意思表示がしにくい方もいます。そういった方がいかに楽しく、生きたいように生きることができるよう支えが必要です。

◎実習のねらい

「しょうがい」をもっていようがいまいが、初対面の人と一緒に時間を過ごすことは大変なことだと思います。しかし、少しでも相手の方のことを知ることで楽しい時間を過ごすことが出来るようになります。身近にいるしょうがい者の方のことを知ることでしょうがい者の方も過ごしやすい社会になるのではないのでしょうか。

今の社会でどうしたらしょうがい者の方もその人なりに働くことができ、充実感を味わうことができるのでしょうか。また、その人それぞれにあった支えとはどのようなものなのでしょうか。このようなことを考えてもらい、自分の生活へも還元して「自立」というものをもう一度考えてみて欲しいと思います。

◎実習プラン

以上のようなことなどを考えてもらうために、自然食品などの袋詰めや販売などをして
いるシティライト。フェルトを使った作品を作るなど芸術作品を作っているたんぽぽ。ま
た、昼間の時間をしょうがい者の方が生活されているえんぴつの家デイケアセンター。の3
カ所を実習先にしました。

実習概要	実習協力団体及び実習内容	実習期間
作業所に伺う	協力団体：社会福祉法人 シティライト 実習内容：中央区にある作業所でどのような作業 を行なっているかを見たり、その作業 を一緒に行ったりする。 実習場所：神戸市兵庫区荒田町 4-3-14	3月11日（木）または 3月15日（月） 10:00~16:00
作業所に伺う	協力団体： 社会福祉法人小規模通所授産施設 たんぽぽ 実習内容：①24日はたんぽぽの畑に行き、農 作業でのしょうがい者の方と一緒に 働いたり、お話を伺ったりする。 ②1日は、フェルトの作品をしょう がい者の方が各自の判断などで作っ ている様子を見たり、一緒に作業を したりする。 実習場所：神戸市東灘区御影塚町	2月24日（水）または 3月1日（月） 9:30~16:00
介助体験	協力団体：えんぴつの家デイケアセンター 実習内容：しょうがい者の昼間の生活を見て、感 じてもらう。食事介助なども経験して もらう。 実習場所：中央区南本町通 5-2-21	2月26日（金）または 3月9日（火） 10:30~17:00

○「しょうがい者」の表記について

今回のボランティア講座では障害者の表記をひらがなで「しょうがい者」としています。
「障害」というものが健常者からの目線からのもので、「障→さしさわる、害→わざわい」
といった意味も持った漢字です。しかし、当人がそれを必ずしも障害ととらえてはいない
のではと感じているので、ひらがなで表記しました。

障害者の表記にはいろいろな考え方があり、どれが正しいと言えるものでもありません。
また、ボランティア講座の参加者にひらがなの表記を求めるものでもありません。障害者・
健常者という関係性のいびつさやそもそも「障害とは何か」ということを考えるきっかけ
になれば幸いです。

2009 年度（第 13 回）神戸大学ボランティア講座
受 講 申 込 書

所属学部・研究科		学 籍 番 号	
ふ り が な 氏 名		電 話 番 号 (携帯又は自宅)	
郵便番号・住所	〒		
E-mail アドレス	PC 等	携帯電話	
ボランティア保険（兵庫県ボランティア・市民活動災害共済）の有無（該当に〇）		有（ ） ・ 無（ ）	

希望体験実習分野選択（第 2 希望まで選択。裏面も参照のこと）

・体験実習分野について、第 1 希望を 1、第 2 希望を 2 と（ ）内に記入。
①こども・若者（ ） ②移住外国人（ ） ③野宿者（ ） ④被災地・被災者（ ） ⑤しょうがい者（ ）

希望施設・希望月日等選択

（第 1・2 希望分野について記入。ただし②「移住外国人」④「被災地・被災者」は不要）

①「こども・若者の居場所」分野（3 日、通所、交通費一部補助）
●若者の居場所（1 つに〇） 2 月 27 日（土）（ ） 3 月 6 日（土）（ ） ●こどもの居場所（以下のうち 1 日参加、第 1 希望に 1、第 2 希望に 2 と記入） フリースクール・フォロ（ <u>21 歳以上</u> のみ受講可） 2 月 26 日（金）（ ） 3 月 12 日（金）（ ） ふおーらいふ 3 月 8 日（月）（ ） 神戸フリースクール 2 月 23 日（火）（ ） ●在日外国人のこども（2 月 23 日（火）～3 月 16 日（火）の火・水・木曜日から 1 日） 第 1 希望日（ 月 日（ ）） 第 2 希望日（ 月 日（ ））
②「移住外国人」分野（2 泊 3 日、交通費・宿泊費は大学負担、食費は自己負担）
●愛知県豊田市での実習（2 泊 3 日、バス移動） 2 月 23 日（火）～2 月 25 日（木）
③「野宿者」分野（4 日、通所、交通費一部補助）
●夜回り活動（1 つに〇） 2 月 24 日（水）（ ） 3 月 10 日（水）（ ） ●炊き出し（1 つに〇） 2 月 23 日（火）（ ） 3 月 2 日（火）（ ） 3 月 9 日（火）（ ） ●交流・学習の場（1 つに〇） 2 月 25 日（木）（ ） 3 月 4 日（木）（ ） 3 月 11 日（木）（ ） ●野宿とジェンダー 「女のおしゃべり会」 3 月 14 日（日） （この日のみ）
④「被災地・被災者」分野（2 泊 3 日、交通費・宿泊費は大学負担、食費は自己負担）
●兵庫県佐用町の水害被災地での実習（2 泊 3 日、バス移動） 3 月 9 日（火）～3 月 11 日（木）
⑤しょうがい者分野について（3 日、通所、交通費一部補助）
●作業所（シティライト）（1 つに〇） 3 月 11 日（木）（ ） 3 月 15 日（月）（ ） ●作業所（たんぼぼ）（1 つに〇） 2 月 24 日（水）（ ） 3 月 1 日（月）（ ） ●介助体験（えんぴつの家）（1 つに〇） 2 月 26 日（金）（ ） 3 月 9 日（火）（ ）

※ご記入いただいた情報は神戸大学ボランティア講座実施のためにのみ利用されます。この利用目的の適正な範囲内において神戸大学ボランティア講座に関する資料を作成し、その他の目的には利用されません。

裏面にも記入の上、募集要項から切り離して提出して下さい

分野選択の理由・実習にあたっての希望など

(その分野を選択した理由、実習に参加することで知りたいことなどを自由に記入。実習実施の参考とします。字数は自由。ごく簡単にでも結構です)

氏 名 _____

第1希望	分野 (分野名記入)

第2希望	分野 (分野名記入)